令和３年度調査研究発表会

第５分科会資料

【教科教育研修課　外国語活動・外国語科】

子供の可能性を引き出す学びのデザインに関する研究
ー　個別最適な学びに着目して　ー

〔日程〕

１　開会	１３：４０～１３：４５
２　教育センター研究発表	１３：４５～１４：１０
３　事例発表	１４：１０～１５：３０
(1)　鹿児島市立山下小学校　中尾 ともよ	
(2)　鹿屋市立大姶良中学校　東　修　平	
(3)　県立鹿屋高等学校　山元　絡	
４　研究協議	１５：３０～１５：５０
５　閉会 （連絡及び感想記入等）	１５：５０～１６：００

※　無断掲載・転載は固くお断りしています。

令和４年１月28日（金）

鹿 児 島 県 総 合 教 育 セ ン タ ー

第１章　研究主題に関する基本的な考え方

１　研究の背景について

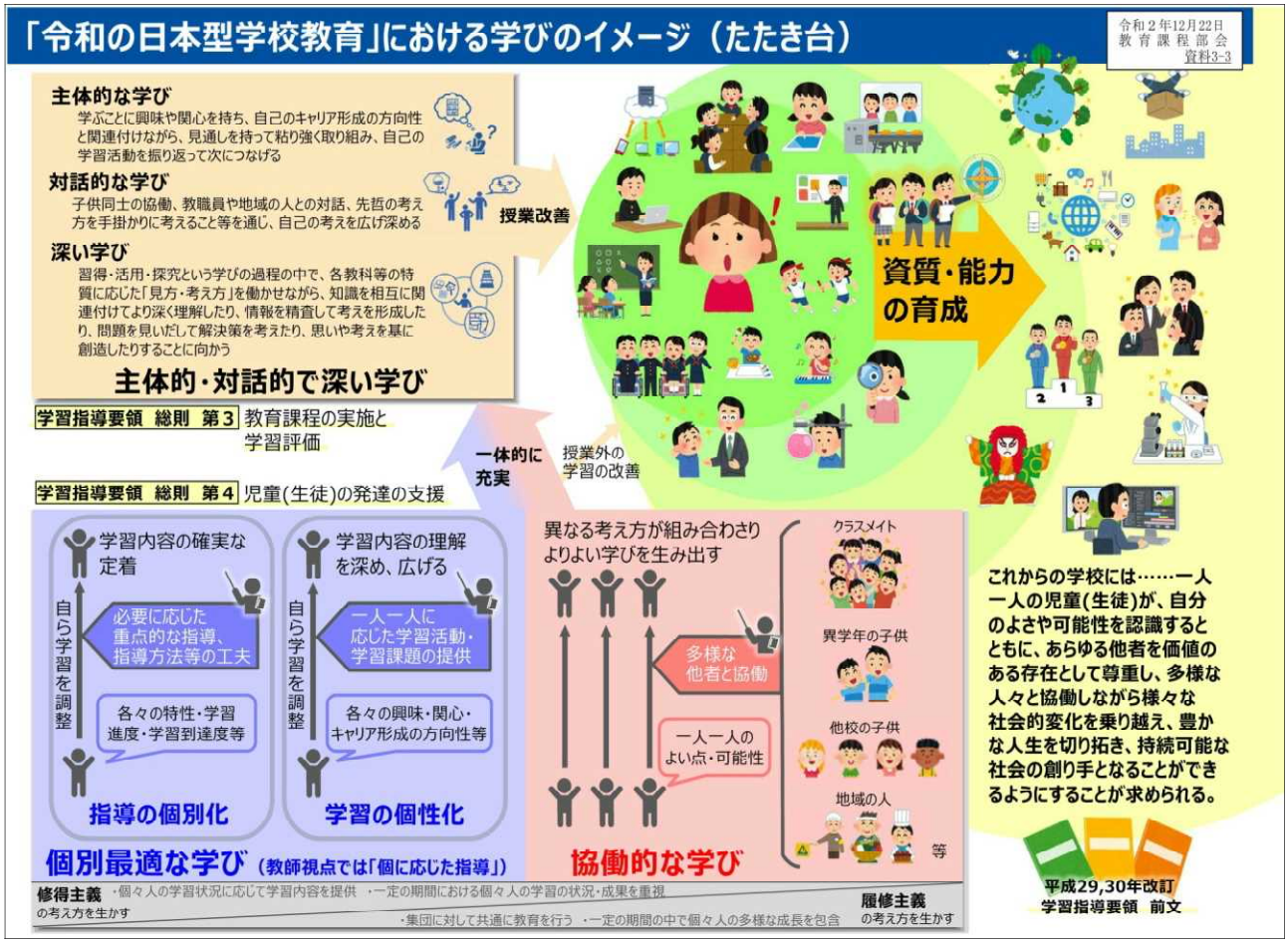
(1)　「令和の日本型学校教育」について

中央教育審議会は，平成31年４月に文部科学大臣から「新しい時代の初等中等教育の在り方について」諮問されたことを受け，令和３年１月26日に「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申)」（以下，「令和３年答申」と表記）を取りまとめた。

資料1-1は，令和３年答申を取りまとめるための教育課程部会で示された「『令和の日本型学校教育』における学びのイメージ」である。

資料1-1　「令和の日本型学校教育」における学びのイメージ

※　中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（第122回）資料3-3「『令和の日本型学校教育』における学びのイメージ（たたき台)」を転載



令和３年答申では，社会の変化が加速度を増し，複雑で予測困難となってきている中，子供たちの資質・能力を確実に育成する必要があり，学習指導要領の着実な実施が重要であるとした。

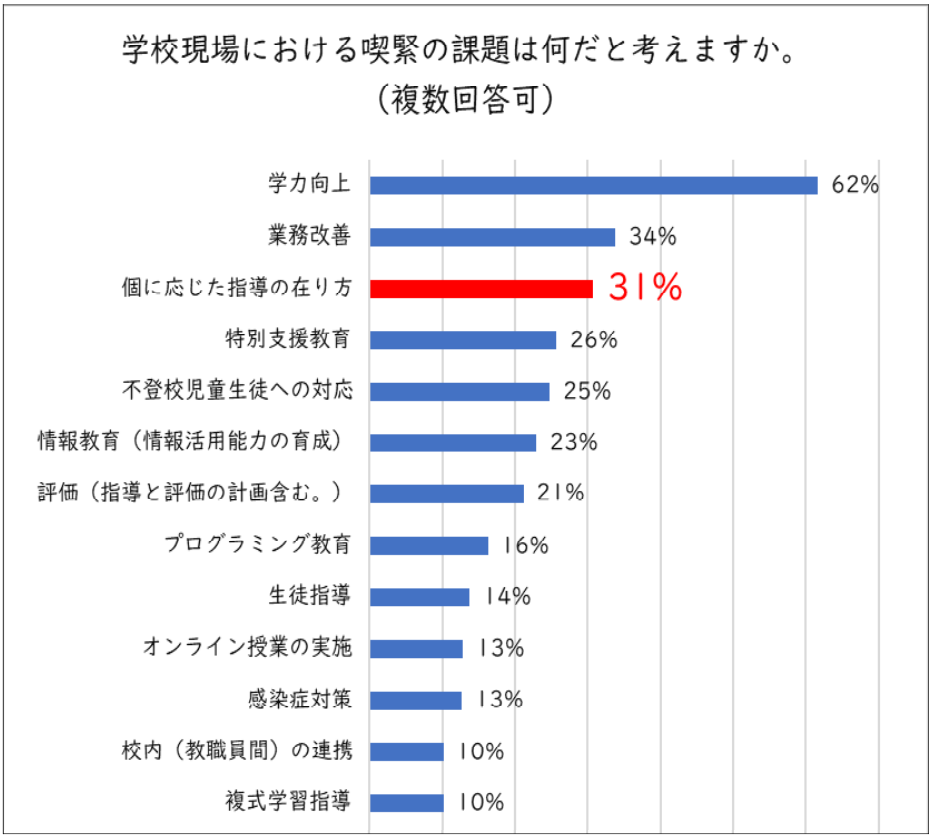
そして，我が国の学校教育がこれまで果たしてきた役割やその成果を振り返りつつ，新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急速な変化の中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ，2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし，その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと協働的な学び」とした。

ここでは，ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により，「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と，これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた，「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指している。

学校における授業づくりに当たっては，先に示した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を組み合わせて実現していくことが求められている。よって，各学校においては教科等の特質に応じ，地域・学校や子供の実情を踏まえながら，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。

(2)　鹿児島県の教職員の意識について

資料1-2　学校現場における喫緊の課題



資料1-2は，令和３年度に教育センターで行われた悉皆研修等に参加した教職員等（管理職238人，教諭788人，合計1,026人）を対象に「学校現場における喫緊の課題」についてアンケート調査を行った結果である。

(1)で示したとおり，令和３年答申には「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実について表記してあるが，「個別最適な学び」と関係のある「個に応じた指導の在り方」が，「学力向上」，「業務改善」に次いで多い項目となっている。

このことから，鹿児島県では「個に応じた指導」について喫緊の課題として捉えている教職員等が多いことが分かる。

２　子供の可能性を引き出す学びのデザインについて

(1)　「子供の可能性を引き出す」ために

学習指導要領では，急速な社会の変化の中を生き抜くためには，子供一人一人が自分のよさや可能性を認識できることが重要と述べられている。

さらに，令和３年答申では「個に応じた指導」を一層重視し，指導方法や指導体制の工夫改善により「個に応じた指導」の充実を図る必要があるとしている。そのため，これまで以上に子供一人一人の成長やつまずき，悩み，個々の興味・関心等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや，子供自身が自らの学習状況を把握し，主体的に学習を調整できるよう促していくことが求められる。

以上のことから，「子供の可能性を引き出す」ためには，子供が自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう，子供一人一人の状態を確実に把握した上で指導することが重要であると言える。

(2)　学びのデザインについて

ア　学びのデザインの基となる授業デザインについて

令和元・２年度研究（未来の創り手に求められる資質・能力を育成する授業に関する研究Ⅱ－学びの価値を見いだす授業デザイン－，以下，「令和元・２年度研究」と表記）では，授業デザインを次のように説明した。

> 授業デザインとは，テキストやプリント等の教材や板書等を使ってどのように教えるのかといった教師の「指導」を設計することだけではなく，児童生徒が体験したい活動や自分自身で考えるための思考プロセスに必要なことを基にした児童生徒主体の「学習」を設計することであると言える。そのため，「授業デザイン」を画一的なものとして設定することは不可能であり，児童生徒の実態や学習内容等に応じて柔軟に変化させる必要があるため，教師はその都度最適化した手立て等を用いた「学習」の方法を検討しなければならない。
>
> **研究紀要第125号　未来の創り手に求められる資質・能力を育成する授業に関する研究Ⅱ p.９参照**

このように，授業デザインとは子供を主体とした「学習」の設計であり，子供の実態や学習内容に応じて変化させるものである。

この考え方は，子供一人一人の実態を把握した上で，それに応じた授業をデザインするという点において，先に示した「子供の可能性を引き出す」という考え方とも一致する。

なお，以上の内容については，右の二次元コードから確認することができる。参考にしていただきたい。

イ　学びのデザインについて

本研究では，学びのデザインを次のように定義した。

> 授業デザインの考え方と要件を基に，各教科等で育成を目指す資質・能力を子供が身に付けられるように，子供が主体となる学び全体のつながりを設計すること。

育成を目指す資質・能力は，子供の学びが繰り返されつながっていくことで育成される。よって，１単位時間の授業や，単元や題材などの内容や時間のまとまりで考える授業デザインに留まらず，自宅学習や休み時間等も含む授業以外の学習に範囲を広げた学び全体をデザインの対象にした。

それぞれの場面で行われた学びが授業で生かされることで，授業における学びが充実する。さらに，その学びをそれぞれの場面で生かすことで，学びが連続・発展するものと考えられる。そのため，**資料1-3**のように学びのデザインの要件を授業デザインの要件の七つの視点に「どこで」を付け加え，八つの視点とすることにした。

資料1-3　学びのデザインの要件

また，子供が主体となる学びには，子供が自ら学びに向かうよう，令和元・２年度研究で示した「学びに向かう力を育むための四つの視点」を意識して学びのデザインを行うことが前提である。

３　「個別最適な学び」に着目した学びのデザインについて

(1)　「個別最適な学び」に着目する理由

学習指導要領では，これまで「個人差に留意して指導し，それぞれの児童（生徒）の個性や能力をできるだけ伸ばすようにすること」(昭和33年告示)，「個性を生かす教育の充実」(平成元年告示）等の表現がなされてきた。平成元年以降の学習指導要領においては，「個に応じた指導」が掲げられ，平成10年以降は，その一層の充実を図る観点から，そのための指導方法等が例示されてきた。

このように，我が国の教育では子供の興味・関心を生かした自主的，主体的な学習が促されるよう工夫することを求めるなど，「個に応じた指導」が継続して重視されてきた。

そして，今回の改訂では「個に応じた指導」を一層重視する必要があるとされ，さらに，令和３年答申では「個に応じた指導」を「子供一人一人に応じた指導」とし，「教師の立場で表したもの」としている。また，これを学習者を主体として学習者の視点から整理したものを「個別最適な学び」とした。

さらに，**資料1-2**より，鹿児島県の教職員等にとって「個に応じた指導」に着目して学びをデザインすることは，時宜を得ていると考える。

以上のことから，本研究では，「個別最適な学び」に着目することとした。

(2)　「個別最適な学び」について

令和３年答申では，「個別最適な学び」を「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理している。この学びを構成する「指導の個別化」と「学習の個性化」の特性を十分に理解した上で学びをデザインすることで「個別最適な学び」を充実させることが必要である。

ア　「指導の個別化」について

令和３年答申について説明した参考資料「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和３年３月版)」(以下，「令和３年３月資料」と表記）には，「指導の個別化」に関して次のような記述がある。

> 全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ，思考力・判断力・表現力等や，自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには，教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや，子供一人一人の特性や学習進度，学習到達度等に応じ，指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。
>
> **学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和３年３月版）p. ７参照**

つまり，一定の目標を全ての子供が達成するために，一人一人の子供が自分に合った方法で学ぶことができるように教師がすることが「指導の個別化」であると考える。

なお，子供自身が自らの特徴やどのように学習を進めることが効果的であるかを学べるよう指導することなども，「指導の個別化」に含まれると考える。

イ　「学習の個性化」について

令和３年３月資料には，「学習の個性化」について，次のような記述がある。

> 基礎的・基本的な知識・技能等や，言語能力，情報活用能力，問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として，幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ，探究において課題の設定，情報の収集，整理・分析，まとめ・表現を行う等，教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで，子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。
>
> **学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和３年３月版）p. ７参照**

つまり，子供一人一人が興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じた異なる目標に向けて，学びを深め，広げるよう学習することが「学習の個性化」である。

なお，その中で子供自身が自らどのような方向で学習を進めることが効果的であるかを考えていくことなども含まれる。

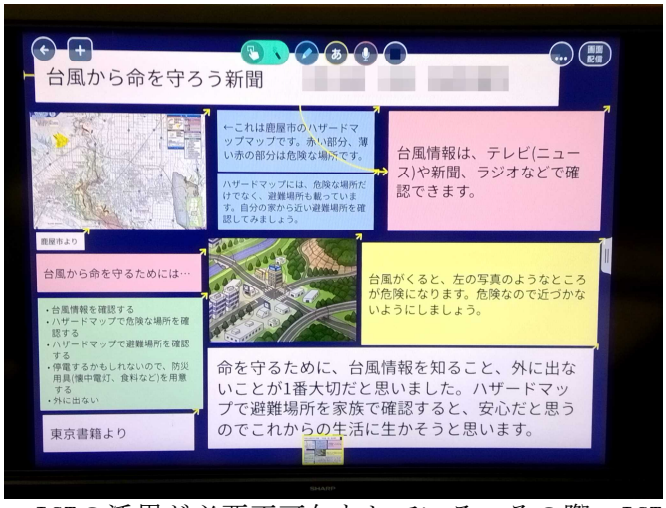
(3)　「個別最適な学び」を充実させるために

「個別最適な学び」では，子供一人一人が自分にとって最適な学びを行う。しかし，「個別最適な学び」のみを進めると学びが孤立してしまい，多様な見方や考え方に触れることが難しくなる可能性があるため，併せて「協働的な学び」を併せて進める必要がある。

「協働的な学び」とは，子供同士で，あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，様々な社会の変化を乗り越え，持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力が身に付く学びである。そのため，子供一人一人が自分のよい点や可能性を生かし，多様な他者と協働し，異なる見方や考え方を組み合わせ，よりよい学びを生み出すことが大切であると考える。つまり，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで，子供一人一人の「個別最適な学び」は更に充実してくると言える。

資料1-4　自分なりの解決方法で問題を解決するためにICTを活用している様子（算数科）

資料1-5　今まで学習した内容を蓄積して新聞を作るためにICTを活用している様子（理科）

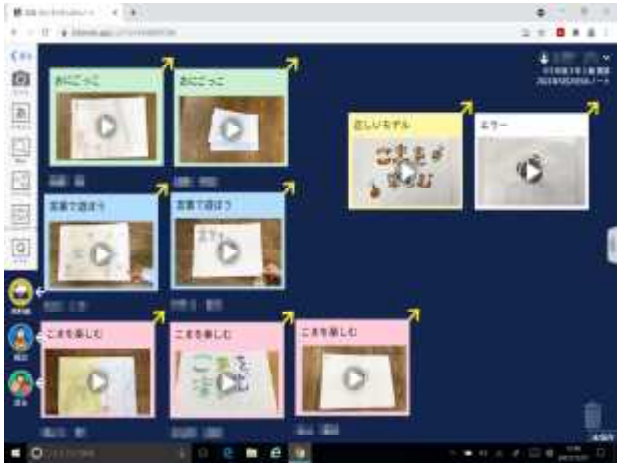


また，令和３年答申では，「個別最適な学び」，「協働的な学び」を充実させるためには，ICTの活用が必要不可欠としている。その際，ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう，十分に留意することが必要である。

資料1-6　意見を交流するためにICTを使っている様子（社会科）

資料1-7　発音が分からないときにICTを使って確認している様子（外国語科）

資料1-8　自分が伝えたいことを動画にして，それを見た子供から意見をもらうためにICTを活用している様子（国語科）



－主な引用・参考文献－

○　文部科学省『小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』総則編，各教科等編，平成29年

○　文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』総則編，各教科等編，平成30年

○　文部科学省『新しい時代の初等中等教育の在り方について（諮問)』平成31年

○　中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会『「令和の日本型学校教育」における学びのイメージ（たたき台)』令和２年，資料3-3

○　中央教育審議会 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して　～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申)』令和３年

○　文部科学省『学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和３年３月版)』 令和３年

○　鹿児島県総合教育センター『研究紀要第125号』令和３年，pp. 1-9

第２章　外国語活動・外国語科における研究

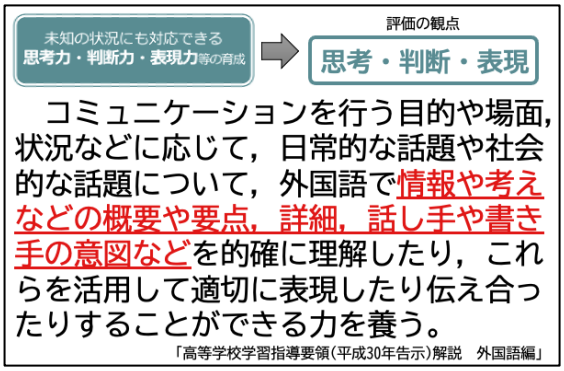
１　外国語活動・外国語科における「学びのデザイン」の考え方

外国語活動・外国語科では，言語活動をデザインすることが学びのデザインとなる。これは，平成29年又は30年に告示された小学校，中学校，高等学校の学習指導要領では共通して言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することが目標として掲げられているためである。

言語活動とは，小学校では「『実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う』活動」（文部科学省,2017）[1]，中学校，高等学校では，「知識及び技能を活用して，思考力，判断力，表現力等を育成するために取り組ませるもの」（山田，2021）[2]と説明されている。**資料2-1**は高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説外国語編に示された思考力，判断力，表現力等の説明である。これらをまとめると，言語活動とは，情報や気持ち，考えを理解したり，表現したり，伝え合うことが目的となる活動と説明できる。

資料2-2は学習指導要領解説に示されている「思考力，判断力，表現力等」を高めるために，外国語で表現し伝え合う力を育成するための学習過程である。

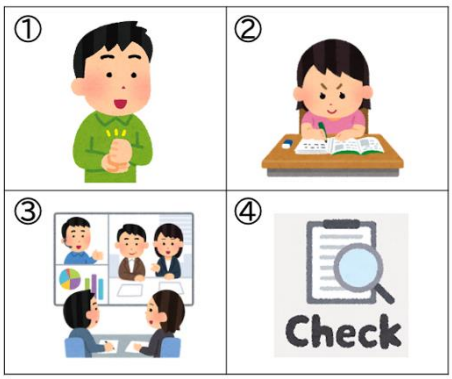
資料2-1　「思考力，判断力，表現力等」



資料2-2　外国語で表現し伝え合う力を育成するための学習過程

① 設定されたコミュニケーションの目的や場面，状況等を理解する。
② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し，コミュニケーションの見通しを立てる。
③ 目的達成のため，具体的なコミュニケーションを行う。
④ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。

（解説　小学校外国語活動・外国語編 p.53，p.132
中学校外国語編 p.97　高等学校外国語編 p.15）



以上の**資料2-1，2-2**では，「<u>コミュニケーションの目的や場面，状況等</u>」という言葉が使われている。この「コミュニケーションの目的や場面，状況等」の設定は，子供が外国語の知識及び技能を活用するためにも，また外国語学習に取り組む気持ちにさせるためにも欠かせないものである。

これまで外国語学習では，「コミュニケーションの目的や場面，状況等」が設定されない，いわゆる練習と考えられる活動が行われることがあった。例えば，パターン・プラクティスは外国語の知識及び技能の習熟等の目的をもって広く行われていたが，使用する場面を設定していなかったため，子供が適切な場面で学んだ文法事項を使おうとしてもうまく活用できないという問題があった。

また，「目的や場面・状況等」が設定されていない活動では，活動の目的が不明なため，子供の主体的な学習に結び付きにくい。例えば，教科書のリテリング活動は，教科書で扱った内容や言語材料の理解や保持，産出という点からは良い活動であるが，子供には，誰に対してどのような場面で行うのか分かりにくい。これに反して，例えば「台湾の同年代の人達と，互いの国のいいところを伝え合おう。」といった，目的や場面・状況等がしっかりと設定された活動では，なぜ外国語を用いるのか，何のために行うのか子供に分かりやすく主体的な学習に結び付きやすい。

以上から，外国語活動及び外国語科の学びをデザインする際には次のことが必要だといえる。

コミュニケーションの目的や場面，状況等を設定した言語活動のデザイン

[1] 文部科学省(2017)　「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm（令和３年 12 月８日閲覧）
[2] 山田誠志（2021）「YouTube MEXT Channel 中学校学習指導要領・学習評価の解説　前編」https://www.youtube.com/watch?v=WoQyyFmEIzI（令和３年 12 月８日閲覧）

では「学びのデザイン」としての言語活動をどのように設定すべきだろうか。「どのように学ぶか」については「主体的・対話的で深い学び」が示されているが，国立教育政策研究所（2021）[3]は**資料2-3**のように授業改善に向けた授業者の視点を示した。

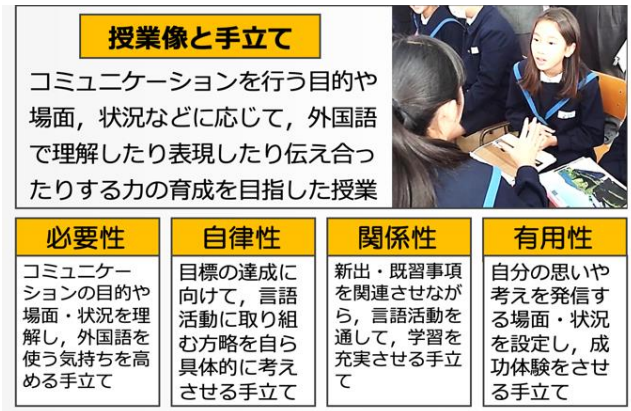
資料2-3　授業改善に向けた授業者の視点（国立教育政策研究所，2021）

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
●　既習事項を振り返る ●　具体物を提示して引きつける ●　子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する ●　子供が自らめあてをつかむようにする ●　学習課題を解決する方向性について見通しをもたせる ●　子供が自分の考えをもつようにする ●　子供の思考を見守る ●　子供の思考に即して授業展開を考える ●　子供の考えを生かしてまとめる ●　交流を通じて思考を広げる ●　その日の学びを振り返る ●　新たな学びに目を向けさせる	●　思考を交流させる ●　交流を通じて思考を広げる ●　協働して問題解決する ●　板書や発問で教師が子供の学びを引き出す	●　資質・能力を焦点化する（付けたい力を明確にする） ●　単元や各授業の目標を把握する ●　ねらいを達成した子供の姿を具体化する ●　教材の価値を把握する ●　単元及び各時間の計画を立てる ●　目標の達成状況を評価する

これらの視点を基にした手立てについては，全教科に共通するが，当センターでは「学びに向かう力」の研究において，外国語活動・外国語科について，**資料2-4**のように整理してまとめた。

上記の「子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する」については，子供が外国語を使う気持ちを高める手立てである「必要性」として提示した。また「既習事項を振り返る」については新出・既習事項を関連させながら学習を充実させる手立てである「関係性」として提示した。このような「学びに向かう力」を意識した手立ては「学びのデザイン」上，参考になる。

資料 2-4　外国語活動・外国語科の授業像と手立て



２　外国語活動・外国語科における「個別最適な学び」の考え方

以上のように，外国語活動・外国語科における「学びのデザイン」については，「コミュニケーションの目的・場面，状況等がある言語活動」に関して，「主体的・対話的で深い学び」及び「学びに向かう力」という視点で手立てを整理してきた。

本稿では，以上のことに加えて，「個別最適な学び」の観点から言語活動に関する手立てを考察する。「個別最適な学び」は「指導の個別化」と「学習の個性化」の二つに分けることができる（文部科学省，2021）[4]。まず，「指導の個別化」については「支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現」することと，「特性や学習進度等に応じ，指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う」ことが示されている。さらに「学習の個性化」では「一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで，子供自身が学習が最適となるよう調整する」ことが示されている。外国語活動・外国語科における学びのデザインとして考えると，上記のことは，言語活動の設定の際にコミュニケーションを行う目的を生み出す手立てと，学びに関して自己調整する手立てを設定することに他ならない。以上の２点をそれぞれ説明する。

[3] 国立教育政策研究所　(2021)「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（検討メモ）」https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r02/r020603-01.pdf（令和３年 12 月８日閲覧）

[4] 文部科学省　(2021)「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_01317.html（令和３年 12 月８日閲覧）

(1)　「個別最適な学び」を考慮した言語活動を設定する手立て

言語活動が適切に行われるよう，前述したように単元の目標設定の際に，「コミュニケーションの目的や場面，状況等」を設定するが，「個別最適な学び」が促されるためには，理解の領域においては目的を，表現の領域については「三つのGAP」（Prabhu，1987）[5]が生まれるような目標を定めたい。

まず理解の領域については，教科書を読む際に，「次のlessonを読みなさい」と指示した場合，子供は読むものの，読む目的が不明なため，どう読むべきかなどの工夫はしにくい。それに反して，身近な環境について扱った単元など，「自分の住む街の環境をよくするために，どのようなことができるのか事例について理解し，今自分たちができることを考えよう」と目標を設定して読んだり聞いたりするように促せば，コミュニケーションの目的が明確化され，理解すべきことも明確になる。

また，表現の領域については，読んだり聞いたりしたことについて，自分の考えや気持ちを述べることが考えられるが，コミュニケーションをする際に必要とされる「三つのGAP」が生まれるようなタスクを考えたい。三つのGAPとは，①情報のGAP，②意見のGAP，③理由のGAPの３点である。この３点が子供によって異なってくるタスクを与えると，子供には自然とコミュニケーションを図る目的が生まれる。そのため，コミュニケーションの資質・能力を育成する手立てとしてこの３点を考慮したい。

(2) 自己調整を行う際の手立て

「個別最適な学び」では，子供の興味・関心等に応じ，一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することが大事になるが，上記のような単元目標を定めた場合，個々の学習者によって，その過程と実践が異なってくることが想定される。

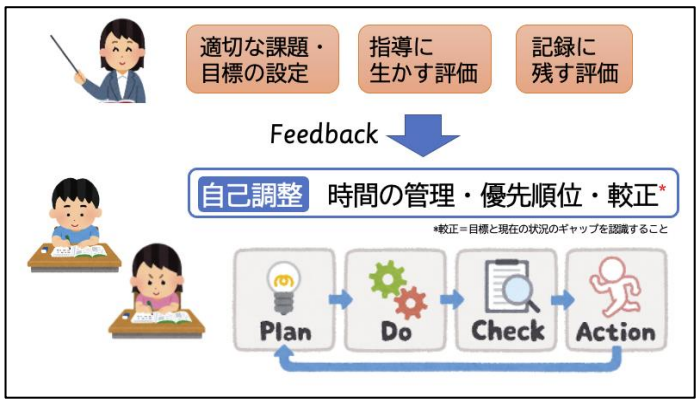
そのため，個別学習でも，グループ学習でも，子供にあらかじめ「計画シート」等を与え，「いつ」，「だれが」，「どこで」，「どんな手順で」，「どんな仕組みで」，「どんな方法で」，「どんな考え方で」，「何を使って」の８つの視点から考えさせるとよい。

その際，実際には計画から言語活動まで，探究の過程（課題の設定，情報の収集，整理・分析，まとめ・表現）を経ることが多いと考えられるが（文部科学省，2018）[6]，その際に子供は自己調整を行う必要がある。自己調整では，時間の管理，優先順位の決定，較正の３点が大事だとされる（フィッシャー＆ナンシー，2017）[7]。

なお，ここでの較正とは，目標とするパフォーマンスと現状のパフォーマンスの差を認識することを意味し，例えばプレゼンテーションであれば，子供の発表の言語面（英語の音声や語彙，文法の正確さや内容の適切さなど），非言語面（声の大きさなど）の両方を目標達成まで何が足りないか認識させることを意味する。

以上のことを**資料2-5**にあるように，教師が「指導の個別化」として，この３点に対して個々の子供の状況を把握し，適切なフィードバックを与えることで，「子供自身が学習が最適となるよう調整する」ことができるようになると考えられる。

資料 2-5　子供の課題達成までの自己調整と教員の feedback



３　授業における様々な手立ての例

次ページの**資料2-6**は，以上の手立てを含めた「学び」を中心においた単元のデザイン例である。言語活動の設定・理解から，コミュニケーションの見通し，実際のコミュニケーション活動，まとめ・振り返りと授業が進む。この過程において，子供の理解度や学力の状態，目標の達成状況に関して，「指導に生かす評価」を行い，具体的な支援なども必要になる。そのため，様々な生徒に適した手立ての工夫を更に深めていく必要がある。

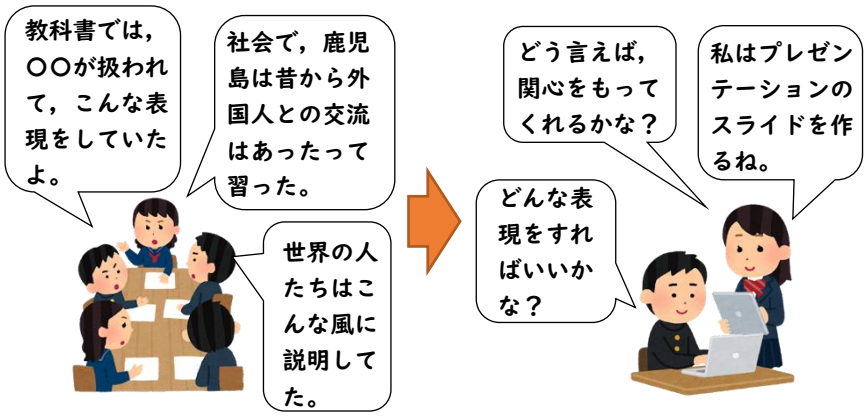
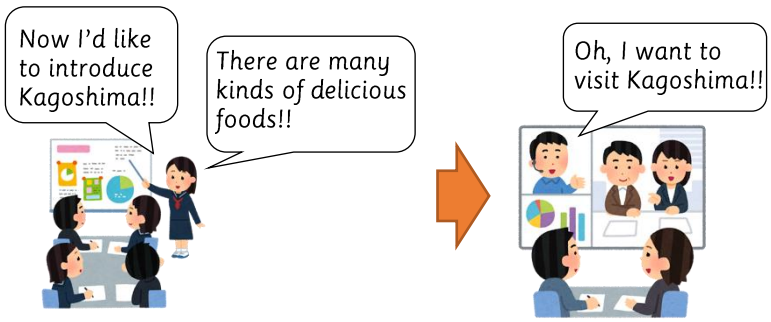
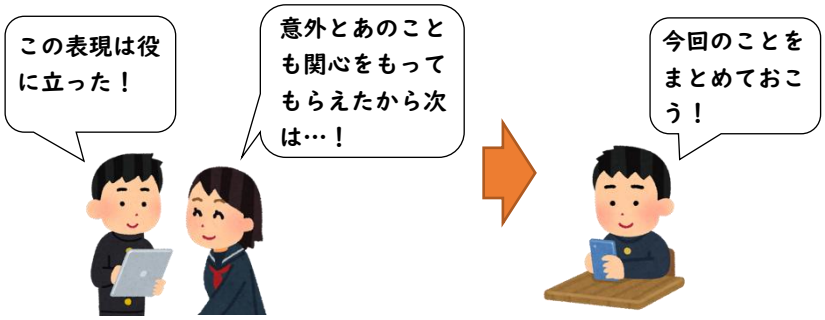
---

[5] Prabhu, N. S. (1987) "Second Language Pedagogy". Oxford University Press.

[6] 文部科学省(2012)　「今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」　https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2011/02/17/1300464_3.pdf

[7] D・フィッシャー，N・フレイ　(2017)　「『学びの責任』は誰にあるのか:『責任の移行モデル』で授業が変わる」新評論

資料 2-6　表現の領域を中心とする「個別最適な学び」を軸とした単元等の学びのデザイン例

	場面	学びの例
言語活動の設定・理解	外国の同年代の人々が，自分が住んでいる場所に来たくなるように，お互いの住んでいる場所のいいところを伝え合おう。 	○　活動の内容を理解する。 ○　グループで発表することを決めて，期限までにそれぞれの関心のあることを詳しく調べてくる。 学習の個性化
コミュニケーションの見通し	 ・情報の整理，分析　　・表現の準備，改善	○　自分で調べた結果を報告，分析。協働的な学び ○　発表内容を決定し，ICTを活用して発表の準備を分担して行う。 学習の個性化 ○　外国語の表現方法は，先生やALTに動画で教えてもらい，何度もその動画を見ることで確認。 学習の個性化 指導の個別化
コミュニケーション活動	 ・グループで練習　　・オンライン会議	○　ICTを活用して，個別に発表内容を作成してから，全体をまとめる。 学習の個性化 協働的な学び ○　発表は分担して行う。練習は授業内外で実施。 学習の個性化 ○　ICTを活用して，距離関係なく，外国語で交流。協働的な学び
振り返り・まとめ	 ・振り返り　　・ポートフォリオ	○　自分たちの活動の様子を動画で確認。 学習の個性化 ○　言語活動で気付いたこと，更に工夫すべきことなどを先生と確認し，ポートフォリオに記録。 学習の個性化 指導の個別化

事例発表（１）

子供の可能性を引き出す学びに関するデザインの研究 －「個別最適な学び」に着目して－
～ 第４学年 「お気に入りの場所をしょうかいしよう」の実践を通して ～

鹿児島市立山下小学校　教諭　中尾　ともよ

１　単元の目標

◎　自分のお気に入りの場所を知ってもらったり，相手のお気に入りの場所をよく知ったりするために，相手のお気に入りの場所に行くための具体的な情報（道案内）を聞きとったり，自分のお気に入りの場所やその理由を伝え合ったりできる。

○　紹介例

C: Go, straight. Turn right. Go, straight. Turn left. This is my favorite place.
A: Your favorite place is the music room?
C: Yes, I like music.

２　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教室名の言い方や，Go straight. Turn right. / left. などの道案内の表現を聞くことや話すことに慣れ親しんでいる。	相手のお気に入りの場所に行くための具体的な情報を聞きとったり，自分のお気に入りの場所やその理由について伝え合ったりしている。	自分のお気に入りの場所やその理由について，相手に伝わるように工夫しながら話そうとしている。

３　「個別最適な学び」に着目した「学びのデザイン」について

「意欲をもつ」過程では，「ミッション！『山下小ツアー』でお気に入りの場所をしょうかいせよ！」という児童が主体的に学習に取り組めるような単元のゴールを提示することで，「自分のお気に入りの場所やその理由について ALT の先生に分かってもらえるにはどのように表現したらよいか。」という「自分の問い」をもつことができるようにする。

「楽しむ」過程では，児童は必要な表現を身に付けるために，タブレットを活用したり，AEA に尋ねたり，児童自ら学習方法を選ぶことができるようにする。

「振り返る」過程では，「My Goal カード（振り返りカード）」や蓄積した動画を振り返ることで，自己の成長に気付くことができるようにする。また，タブレットで自分の動画を確認させることで，次に何をすればよいか児童が具体的に理解できるようにする。

○単元構成　　必 必要性　自 自律性　関 関係性　有 有用性

過程（時）	主な学習活動	主な教師の手立て
意欲をもつ (1)	1　単元のゴールを知り，「自分の問い」をもつ。また，課題を解決するための学習計画を確認する。 「ミッション！『山下小ツアー』でお気に入りの場所をしょうかいせよ！」 【「自分の問い」づくりタイム】	必　児童が主体的に学習に取り組めるような単元のゴールを提示することで，「○○をわかってもらえるにはどのような表現にしたらよいか。」という「自分の問い」をもつことができるようにする。 個別最適な学び
楽しむ (2)	2　道案内の表現と教室名の言い方に慣れ親しむ。また，紹介したいお気に入りの場所を撮影する。 【「自分の問い」追究タイム】	自　道案内の表現の仕方や教室名の言い方について，タブレット PC のコンテンツの中から，自分に必要なものを選んで学習したり，AEA に訪ねたり児童が自ら学習方法を選べるようにする。また，学習進度が遅れている児童には教師が個別に指導する。
	3　自分のお気に入りの場所を友達と紹介し合う。【本時】 【「自分の問い」交流タイム】	関　お気に入りの場所やその理由を友達と伝え合わせることで，児童が互いの表現のよさに気付いたり，よりよい表現について協力して考えたりすることができるようにする。 協働的な学び
振り返る (1)	4　「山下小ツアー」を行い，ALT の先生に自分のお気に入りの場所を紹介する。 【「自分の問い」振り返りタイム】	有　ALT から感想をもらったり，「My Goal カード」や蓄積した動画を振り返ったりすることで，自己の成長に気付くことができるようにする。

4　検証した学びの工夫について

(1)　本授業における「学びのデザイン」の考え方

子供が，自分のお気に入りの場所やその理由を伝えるために，必要な表現を選んだり，確認したりできるような手立てを講じることで，自信をもって道案内をしたり，お気に入りの場所とその理由を伝え合うことができるようにする。

(2)　本時の実際

過程（分）	主な学習活動と予想される子供の反応	指導上の留意点
意欲をもつ（10）	1　「Small Talk」を行い，本時のめあてを確認する。【「自分の問い」づくりタイム】 道案内をして，お気に入りの場所やその理由を友達としょうかいし合おう。 私は，歌が好きだから，音楽室を紹介したいな。 ぼくは，読書が好きだから，図書室を紹介したいな。	必　「Small Talk」を行うことで，コミュニケーションのポイントや表現面から「自分の問い（めあて）」をもつことができるようにする。 個別最適な学び
楽しむ（25）	2　「Word Adventure Time」を行う。【「自分の問い」追究タイム】 (1)　本時で活用する表現を全体で確認する。 (2)　個人で紹介の仕方を確認する。 教室の言い方の発音をもう１回タブレットで確認したいな。 3　「Activity①」を行う。 4　「１-up Time」を行い，「Activity①」における互いのよさを全体で共有したり，生じた課題を解決したりする。【「自分の問い」交流タイム】 5　「１-up Time」で共有したことを生かし，「Activity②」を行う。 	自　「Word Adventure Time」では「Small Talk」を想起することで，道案内やお気に入りの場所を紹介するのに使えそうな表現を全体で確認することができるようにする。また，個人でタブレット PC を用いて表現の練習をしたり，HRT や AEA とやり取りの確認をしたりすることで，自信をもって「Activity」を行うことができるようにする。また，学習進度が遅れている児童には個別に指導する。 個別最適な学び 関　「１-up Time」では，「Activity①」で上手く伝えられたことや効果的だった表現，表現方法等を全体で共有したり，生じた課題を解決したりすることで，「Activity②」において自分の表現に生かすことができるようにする。 協働的な学び ◆　“Go straight.”や“Turn right/left.”の表現を使って道案内をしたり，“This is ~.”や“I like ～.”などの表現を使ってお気に入りの場所や，その理由を伝えようとしたりしている。 【パフォーマンス評価：やり取り】
振り返る（10）	6　本時の学習について振り返る。【「自分の問い」振り返りタイム】 自分の動画を見たら，好きな理由を伝えていなかったから，次は理由まで言えるように練習しよう。 知っている言葉を使って，確認しながら紹介することができたよ。	有　「My Goal カード」にできるようになったことや効果的だった表現，「もっと～したい。」という願いや今後の課題等を記入することで，次の『山下小ツアー』への意欲を高めることができるようにする。 個別最適な学び

事例発表（２）

子供の可能性を引き出す学びに関するデザインの研究 －「個別最適な学び」に着目して－

～ 第２学年 「SUNSHINE ENGRISH COURSE 2　PROGRAM 6　Live Life in True Harmony」の実践を通して ～

鹿屋市立大姶良中学校　教諭　東　修平

１　単元の目標

◎　自分の将来や自分の憧れの人物を知ってもらったり，相手の憧れの人物をよく知ったりするために，相手の憧れの人物の具体的な情報（尊敬する人物）を聞き取ったり，自分の憧れの人物やその理由を伝え合ったりできる。

○　紹介例

The person I respect is ○○.　I have three points to respect him.

First, ...　Second, ...　Third, ...

I want to be a ○○ in the future.　So, I want to be a kind person like ○○.

２　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む惰度
〔知識〕受動態を用いた文の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕受動態を用いた文の理解をもとに，起こった出来事や人・物の紹介する力を身に付けている。	ALT の友人に自分の憧れの人を紹介するために，その人についての情報を整理して，詳しく伝えている。	ALT の友人に自分の憧れの人を紹介するために，その人についての情報を整理して，詳しく伝えようとしている。

３　「個別最適な学び」に着目した「学びのデザイン」について

本単元では，単元のまとめの段階で，生徒たちが「ALT の友人や級友に自分自身の将来の目標に触れながら尊敬する人物を魅力的に表現すること」を目標として設定した。目標は同じでも，英語で伝える内容が生徒の興味・関心によって違うため，その目標の設定が，個別最適な学びになると考える。また，協働的な学びになるよう，生徒が発表する内容を自身で改善する際に教科書や教師の指導ばかりでなく，友人の発表もお互い参考にさせるように工夫した。

○単元構成　　必 必要性　自 自律性　関 関係性　有 有用性

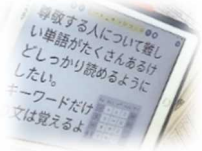
時	学習活動・内容	指導上の留意点
1	■　Unit６のスキーマ形成を行い，単元の目標を理解する。 将来の夢と関連付けて，自分の憧れの人物とその理由を伝えられるようになろう。	必　ビデオ会議システムを活用し，ALT の友人と対話し相手が知りたい情報を質問することにより，相手が知りたい情報を焦点化し，相手に憧れの人物を伝えたいという思いをもてるようにする。 個別最適な学び
2～7	■　受け身表現を用いて，人や物の状態を伝えることができる。 ①　本文（Scene, Think）の概要を捉える。 ②　スティービー氏について自分の考えを伝え合う。	自　最終発表では，発表方法はタブレット端末やポスターなど自分が活用したいものを選択できるようにする。また発表練習の際には教科書，友達の意見も参考にしてよいことを伝える。　個別最適な学び 関　自分の憧れの人物とその理由を友達と伝え合わせることで，お互いの表現の仕方の良さや改善点を確認し合い，発表の質を高められるようにする。 協同的な学び
8・9	■　自分の憧れの人物について伝え合う。 ①　グループで練習し，発表の質を高め合う。 ②　パフォーマンステスト	有　ALT の友人から感想をもらったり，単元を通して思考ツールのワークシートや自己の発表した動画を確認したりすることで，自己の成長に気付くことができるようにする。個別最適な学び　協同的な学び

4　検証した学びについて

(1)　本授業における「学びのデザイン」の考え方

生徒たちが自分の憧れの人物とその理由を伝えるために，自己の必要な表現を選んだり，確認したりできるような手立てを講じることにより，意欲的に憧れの人物とその理由を伝えられるようにする。

(2)　本時の実際

区分(分)	主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入(6)	1　英語であいさつをする。 2　スティービー氏の幸せについて考えてみよう。また，自分の将来の幸せとは何か考えて伝えてみよう。 Will you go first? OK. My happiness is that my family is healthy. Because my family always makes me happy.	必　「Small Talk」で，人々の幸せついてディスカッションを行うことで，スティービー氏の生き方や言葉の深さについて捉え，また将来の目標に関連付けができるようにする。 トリオディスカッションとすることで，自分にとっての幸せとは何かを考えられるようにする。(Small Talk) 個別最適な学び
	3　本時の目標を確認する。	○　学習の流れを示し，見通しをもたせる。
	ＡＩＭ:　スティービー氏の生き方や言葉を参考に，憧れの人物の魅力を深く伝えられるようになろう。	
展開(43)	4　発表練習をする。 I'm going to talk...	必　発表方法はタブレット端末やポスターなど自分が活用したいものを選択することができるようにする。また，発表内容の改善のために，本時の授業で教科書の内容や，友達とのやりとりを通して確認することや，インターネットなど様々なリソースを参考にしてよいことを伝える。 個別最適な学び
	5　新出語句の発音練習を行う。 6　本文の内容を確認する。 7　グループ内で発表し，お互いのいいところや改善点を伝え合う。 8　発表練習をする。	関　生徒同士の学び合い学習時間設定する。教科書の概要や発表の伝え方や内容面，文法面の改善点等内容の表現を確認できるようにする。また，級友の表現でよいものは，活用してもよいことを伝える。 I like your idea. If you say the reason, your presentation will be even better. Why do you respect that person?
終末(7)	9　本時の学習内容を振り返る。 【「自分の姿を振り返る時間」】 一生懸命に努力してきて少しずつ紹介できるようになってきた。 しかし，まだ自分の将来の夢を伝えられていないから，次は言えるようになりたい。	有　時の中で理解できたことや工夫していきたいことを，タブレット端末で振り返りカードに記入し振り返る活動を設定し，次の授業で表現したい意欲を高められるようにする。 個別最適な学び 

事例発表（３）

子供の可能性を引き出す学びに関するデザインの研究 －「個別最適な学び」に着目して－
～ 第２学年 「勇気を与えてくれる歌を紹介する」の実践を通して ～

県立鹿屋高等学校　教諭　山元　絡

１　単元の目標

日常的な話題である歌（勇気を与えてくれるもの）について ALT に知ってもらうために，その歌の背景や魅力などについて考えを整理し，紹介することができる。

２　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報や考え，気持ちなどを理由とともに話して伝えるために必要となる語句や文を理解している。 ・勇気を与えてくれる歌について，背景や魅力等を整理して分かりやすく発表する技能を身に付けている。	ALT に勇気を与えてくれる歌について知ってもらうために，その歌の情報や魅力などを整理し，紹介している。	ALT に勇気を与えてくれる歌について知ってもらうために，その歌の情報や魅力などを整理し，紹介しようとしている。

３　「個別最適な学び」に着目した「学びのデザイン」について

プロジェクト型の帯活動にすることで，授業内外で個人学習に取り組めるようにした。

最初の授業で落ち込んでいる ALT に歌を紹介するという目標を提示することで，外国語を使う必要性や気持ちを高めた。また発表例や三つの条件等を含めた評価規準を始めに示すことにより，目標を具体的にした。

プロジェクト中は，自動英文添削アプリである Grammarly や語彙の CEFR レベルの判定サイトである CVLA，また，伝わる発音を確認するため，LINE や Google の音声入力機能を生徒自身に必要な場面で活用するように指導した。

振り返りの場面では，ビデオを個別に ALT に評価及びフィードバックをしてもらうことで生徒に伝わったという成功体験をさせ，さらに改善点などを確認させ，次のプロジェクトに向けた動機付けとなるようにした。

○単元構成

必 必要性　自 自律性　関 関係性　有 有用性

時	学習活動・内容	指導上の留意点
導入	１　単元の目標や評価規準を確認し，プロジェクトの方向性を定める。	必　外国語を使う必要性を示す。目標を具体的にする。 個別最適な学び
過程	２　３つの条件を満たすために段階的に活動を行っていく。添削アプリなどのテクノロジーを活用する。	自　プロジェクトを進める際に，自分に必要なテクノロジーを選択できるようにする。 個別最適な学び
	３　ペアを変えて発表をし，フィードバックを基に改善していく。	関　条件ごとにペアを変えて何度も練習し，生徒に自信をもたせるようにする。
	４　ALT の先生に勇気を与える歌をビデオで紹介する。	自　撮影して提出とし，何度でも挑戦できるようにする。 個別最適な学び
終末	５　ALT から評価・フィードバックをもらう。	有　成功体験をさせ，次のプロジェクトに向けて動機付けを行う。

4　検証した学びについて

(1)　本授業(単元)における「学びのデザイン」の考え方

ICT を活用して，相手に伝わりやすい語彙や表現を個別に学ぶ機会を設定する。また，ペアで発表する場面を可能な限り多く設定する。ペアからのフィードバックを得るなど改善の時間を設けることで生徒が徐々に自信をもって発表できるようにする。メモを読むということを避けるために，メモの位置を工夫するなど物理的な負荷を段階的に増やしていく。個人によってメモを見る頻度は異なる。

(2)　本時の実際

	学習活動・生徒の様子（㊞）	指導上の留意点
導入	1　単語を当てるゲームをペアで行う。 2　本時の目標を確認する。 ベン先生やクラスメイトに勇気を与える歌を紹介しよう。 ㊞　ALT が本当に落ち込んでいることを知り，発表の必要性を実感し，自分の好きな歌を紹介したい気持ちになっていた。	英語学習の雰囲気をつくる。 必　単元のゴールを再確認させる。 ALT が落ち込んでいる状況を直接生徒に説明し，活動の必要性を再確認。発表内容を好きな歌にすることで取り組みやすくした。 個別最適な学び
展開	3　作成したメモを元に各自で練習する。 4　始めてのペアで相互に発表を行う。 （物理的負荷：メモは手元） ㊞　この時点で，メモをほとんど見なくても堂々と発表する生徒もいた。 5　発表後，ペアでお互いに情報の確認や疑問に思ったことを確認する。また改善を図る。 ㊞　ペア発表で初めて，上手く伝わらなかった部分を認識できた生徒も多く，個々の発表の改善へとつながった。 6　ペアを代えて改善したものを発表 （物理的負荷：メモは机の上） 7　更に改善　（5と同じ） 8　ペアを代えて発表 （物理的負荷：メモは相手の机の上） 9　撮影し提出を行う。 ㊞　撮影を何度やっても上手くいかない生徒もいたが，諦めることはなかった。	自　文強勢を意識するように伝える。 関　初めてのペアで発表をする。生徒に初めての相手でも意図がしっかり伝わる発表を目指すよう伝える。 協働的な学び 自　改善点を考える時間を設ける。 改善点を確認するために，聞き手はメモする。聞き取れていない部分は改善が必要なことを発表者が認識するよう伝える。個人によって改善点が異なる。 個別最適な学び 有　相手を代えて発表することで，「できる」という実感を得るようにする（有用性が増す）。　協働的な学び 関　違う視点からアドバイスをもらう。 有　「できる」という実感を得るよう更に相手を代えて伝え合う。協働的な学び 一番良い作品を提出。自宅で何度も練習して撮影する者もいた。 個別最適な学び
終末	ALT の評価とコメントを確認する。 	良かった点・改善点を振り返る活動により，次の学習への意欲につなげる。